

平成 29 年度

九州地区

参加無料

定員 250 名
申込先着順

橋梁技術発表会 及び 講演会

13:00～13:10

開会の辞 (一社)日本橋梁建設協会
橋梁技術発表会実行委員長 上原 正

日 時 平成 29 年 11 月 17 日(金)13:00～16:50

13:10～13:25

協会活動報告 広報委員会

会 場 レソラNTT夢天神ホール5F
福岡市中央区天神 2-5-55

第 1 部 (技術発表)

13:25～14:05

床版小委員会

1. ここまで進んだ鋼床版の疲労対策
～垂直補剛材上端部と架設用吊金具ももう大丈夫～

休憩

申し込み ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
受付は平成 29 年 10 月 6 日～11 月 3 日

※ 申し込みは、HP のみです。

継続教育 CPDS 認定予定

資料配布

当日配布は、PPT の 2 アップ出力のみです。
論文 pdf は事前に HP にアップ致しますので、
必要に応じて出力し持参願います。

14:15～14:55

製作小委員会

2. 重防食塗装の実際
～重防食塗装の耐候性に関する変遷～

発表概要

【ここまで進んだ鋼床版の疲労対策】

現在問題となっている鋼床版の疲労損傷は、道路橋に疲労設計が適用される以前に設計・施工されたものが殆どである。今の鋼床版は最新の知見に基づき対策が施され、疲労耐久性が大幅に向上している。そこで、過去の疲労損傷事例と対策を整理、再考し、そこから更なる疲労対策を提案する。

現行基準は、大型車輪荷重が常時載荷される位置直下に主桁ウェブを配置しないことでデッキプレートと垂直補剛材溶接部の疲労対策としているが、それを実施できない場合も少なくない。その対策として垂直補剛材上端部をカットする構造を提案する。また、板厚 12mm のデッキプレートに存置された架設用吊金具溶接部にき裂が見つかった事例があるが、板厚 16mm では問題とならない可能性があり、架設用吊金具の使用後の処置方法について提案する。

【重防食塗装の実際】

鋼道路橋防食便覧に重防食塗装系が規定されて 10 年以上が経過するが、防食下地と高い耐候性を有した上塗り塗料の組み合わせで構成されるこの重防食塗装は、鋼道路橋における塗装の基本となっている。重防食塗装系に関する性能評価結果やメリットおよび今後期待される性能について紹介する。また、箱桁内における部材角部の処理に関する暴露試験途中の結果についても紹介する。

【イズミット橋の工事報告】

2016 年 7 月、世界有数の地震地帯であるトルコに世界第 4 位の長さを有するイズミット湾横断橋(正式名称:オスマン・ガーズィー橋)が開通した。本工事は上下部一括のデザインビルドであり、海底 40m の軟弱地盤への海中主塔基礎の設置など厳しい条件の中、わずか施工期間 3.5 年で開通にこぎつけた。発表では、耐震性の確保と短期での完工を両立させた構造上、施工上の工夫などについて紹介する。

14:55～15:35

海外事業委員会

3. イズミット橋の工事報告
～上下部一括デザインビルドによる長大吊橋の建設～

休憩

第 2 部 (特別講演)

15:45～16:45

1. 国土とインフラについて学ぶ
～熊本地震を経験して～

国土交通省 九州地方整備局
熊本河川国道工事事務所
所長 森田 康夫

16:45～16:50

閉会の辞 橋梁技術発表会 実行委員会

開催会場

東 京地区: 10 月 13 日 (金)
大 阪地区: 10 月 18 日 (水)
中 部地区: 10 月 27 日 (金)
北 海 道 地区: 11 月 02 日 (木)
東 北 地区: 11 月 10 日 (金)
九 州 地区: 11 月 17 日 (金)
(6 地区開催ですが、発表テーマは異なります)

主催:



一 般 社 団 法 人 日 本 橋 梁 建 設 協 会
Japan Bridge Association Inc.

<http://www.jasbc.or.jp/>